共同的課題の遂行と言語表現の関係

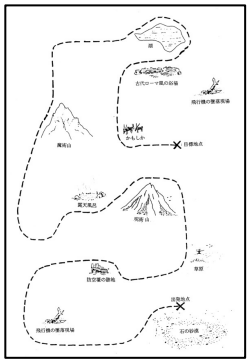
川端 良子　(言語資源開発センター)

はじめに

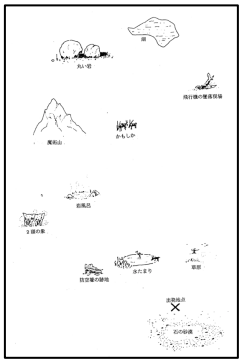
複数の人が協力して一つの目標を達成しようとするとき、発話は課題の達成においてどのような役割を果たしているのだろうか？本研究は、発話と課題の遂行との関係を『日本語地図課題対話コーパス』を用いて分析を行う。

日本語地図課題対話コーパス

- 役割の異なる二人の会話参加者
  - 情報提供者(Giver):経路が書かれた地図を渡される(右図(1))
  - 情報追随者(Follower):経路のない地図が渡される(右図(2))
- GiverはFollowerに対して地図の経路情報を伝える
- FollowerはGiverの情報から地図上に経路を描写する
- GiverとFollowerは別々の部屋に入り，Giverの地図に書かれた経路をFollowerの地図に再現する課題を遂行する
  - Followerの経路描写の様子を含めお互いの姿が見えない
  - 両者は音声言語だけを用いて会話を行う



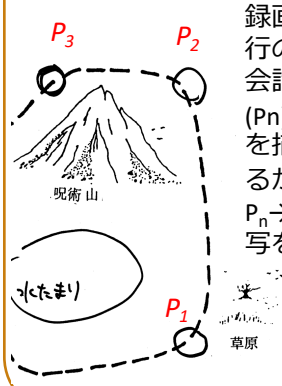
(1)Giverの地図の例



(2)Followerの地図の例

分析方法

(1) 課題をいくつかのサブ課題に分割

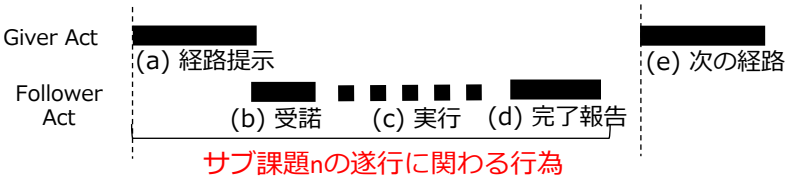


録画された地図課題遂行の様子を見ながら、会話参加者がどの地点(Pn)からどの地点(Pn+1)を描写しようとしているかを特定。
$P_n \rightarrow P_{n+1}$ までの経路描写をサブ課題nとする。

(左図) 地図課題終了後のGiverの地図の一部

(2) 各サブ課題の遂行に関わる発話に[機能]ラベルの付与

(1) G: 呪術山の右上までまっすぐ上へ行ってください[(a) 経路提示]
(2) F: はい [(b) 受諾]
(3) F: (wrote route) [(c) 実行]
(4) F: 描きました [(d) 完了報告]
(5) G: 今度はそのまま山の左上へ行ってください [(e) 次の経路提示]



結果

[経路提示]の言語表現と課題遂行に関わる他の行為との関係を分析

	経路提示表現の種類	発話例	使用頻度平均	[完了報告]の共起		両者のサブ目標の一致	
				割合	P値	割合	P値
Giver	テ節	川を渡って	9.3	20%	.030	64%	.202
	依頼	真っすぐ上に行ってください	5.4	69%	**< .001**	80%	**< .001**
	確言	今度は左折します	5.2	19%	.253	69%	.73
	条件節タラ	下に着きましたら	3.0	44%	.553	70%	.967
	体言止め	斜め右下に2センチ位	2.3	43%	.041	60%	.942
Follower	真偽疑問	右に行きますよね	4.5	43%	.122	84%	.006
合計				33%		69%	

- 経路提示の表現形式
  - テ節 > 依頼 > 確言
- 経路情報の提示方法によって課題の遂行パターンが異なる。特に、「依頼」の形式でGiverが経路情報を提示した場合、Followerは次のサブ課題が開始する前に経路を描写し、描写が終わったことをGiverと共有する傾向がある。

川端良子, 松香敏彦, 土屋俊 (2018).地図課題対話における共有信念更新のメカニズム, 認知科学, 24巻, 2号, 153-168.